

# 園芸タイムリー情報

## 《9月上・中旬版》


平成27年 9月 2日発行 第8号  
 上川農業改良普及センター  
 Tel 0166-84-2017 Fax 0166-84-2009  
 E-mail asahi-nokai.11@pref.hokkaido.lg.jp  
 HomePage http://www.kamikawa.pref.hokkaido.lg.jp/ss/nkc/index.htm

### 全作物共通

- 晴天時は葉からの蒸散が活発になります。土壌水分が不足していると、しおれたり生長点などが枯れることがあります。かん水は根域全体にいきわたるように行いベッド内に行いムラがないか確認しましょう。生育期節によっては遮光資材の使用も検討しましょう。
- ハウス内の温度に合わせて換気を行い、生育適温の維持に努めましょう。
- 曇天や雨天の場合はハウス内の湿度を低下させるため、状況に応じて換気を行いましょう。
- アブラムシ類が増加傾向にあります。今後、ハダニ類・アザミウマ類・コナガ等の害虫の増加が懸念されます。ほ場観察を行い適期防除に努めましょう。


※本資料に記載の農薬や資材は「地域で推奨するもの」を使用し、倍率や収穫前日数に十分留意して使用ください。


作物名	ナス科果菜類（トマト類・ピーマンなど）	
病害虫生理障害名	オオタバコガ	
発生状況	多発生	
発生時期	8月上旬～	
		
成虫 トマトに食入した幼虫		
発生の状況・要因		
<ul style="list-style-type: none"> <li>上位の果実に幼虫が見られ、食害が著しい。</li> <li>ヨトウムシ類のように集団での食害はないものの、ハウス内でまばらに見られる。</li> <li>8月中旬以降、発生が増えている。</li> </ul>		
対策		
<ul style="list-style-type: none"> <li>多発すると被害が甚大となるので、ほ場をよく観察し、発生初期から薬剤散布を行う。</li> <li>＜防除の一例：トマト・ミニトマト＞</li> <li>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>＜防除の一例：ピーマン＞</li> <li>●アファーム乳剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●フェニックスジェット 50g/高さ2m×200㎡ 収穫前日まで 2回以内</li> <li>＜防除の一例：ししとう・とうがらし類＞</li> <li>●プレバソンフロアブル5 1,000～2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul>		


作物名	トマト類
病害虫生理障害名	灰色かび病
発生状況	多発生
発生時期	6月上旬～
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>花びらのかすや、花落ち部分からの発生が多く見られる。</li> <li>20℃くらいで多湿のときに発生しやすい。</li> <li>密植、軟弱生長、過繁茂により多発する。</li> <li>現在は、気温の低下、湿度の高まりに伴い、発生量が増加傾向にある。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>換気を心がけ、ハウス内湿度の低下に努める。</li> <li>被害茎葉・果実は見つけしだい除去し、ほ場外へ搬出する。</li> </ul> <p>＜防除の一例（トマト・ミニトマト共通）＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セイビアーフロアブル20 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●ロブラール水和剤 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●カンタスドライフロアブル 1,000～1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> </ul>	

作物名	きゅうり
病害虫生理障害名	褐斑病
発生状況	中発生
発生時期	6～10月
	
	
	大型の斑点症状 新葉に発生する小斑点症状
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉に淡褐色の小斑点が発生し、やがて拡大して病斑上に黒っぽいかびを生ずる。</li> <li>べと病と間違えやすいが、褐斑病は病斑が丸みをおびて、かびを生ずる特徴がある。</li> <li>新葉に発生する小斑点は症状の拡大が早いので特に注意する。</li> <li>高温（28℃）多湿条件で多発する。</li> <li>現在は、草勢が衰えているハウスを中心に発生が拡大傾向にある。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>適正な管理で草勢を保つとともに積極的な換気を行い、ハウス内湿度を高めないようにする。</li> <li>発病葉は摘除し、ほ場外に搬出する。</li> <li>ほ場全体に発生が拡大した場合は、草勢を確保するため罹病葉の摘葉を続けながら、側枝の摘心を控え、生長点を多く確保する。また、通常よりやや間隔を狭めて防除を行う。</li> <li>＜防除の一例＞</li> <li>●ジマンダイセン水和剤 600倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●ゲッター水和剤 1,500倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●スミブレンド水和剤 1,500～2,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>●フロボース顆粒水和剤 1,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●カンタスドライフロアブル 1,500倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>※ゲッターとスミブレンドの使用回数は合わせて5回なので注意する。</li> <li>※フロボース顆粒水和剤はダコニール1000と合わせて8回以内とする。</li> <li>※カンタスドライフロアブルは耐性菌の出現を回避するために、年使用回数は1～2回までとする。</li> </ul>	


作物名	きゅうり
病害虫生理障害名	うどんこ病
発生状況	中発生
発生時期	6月上旬～
	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉上にうどん粉をふりかけたように白色、粉状のカビを生ずる。</li> <li>多湿から乾燥まで広範囲の湿度条件下で蔓延し、やや高めめの気温（25℃くらい）で発生しやすい。</li> <li>成り疲れや肥料切れなどで草勢の衰えた場合に発生しやすい。</li> <li>特に、ハウスサイドからの発生が多い。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>葉表、裏ともに症状が発生するため、葉裏の発生状況も確認する。</li> <li>ほ場内が乾燥条件とならないよう注意する。</li> <li>発生を確認したら早期に防除を行う。</li> <li>防除は、農薬の登録の範囲内で十分な散布量を確認し、薬液がしっかりとかかるように行う。通路側からだけでなく、できる限りハウスサイドにも防除を行う。</li> <li>＜防除の一例＞</li> <li>●ポリバリン水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●パンチョTF顆粒水和剤 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●カスミンボルドー 1,000倍 収穫前日まで 5回以内</li> <li>※パンチョTF顆粒水和剤とトリフミン水和剤の総使用回数は合わせて5回まで</li> <li>※ポリバリン水和剤とベルコート水和剤の総使用回数は合わせて5回まで</li> </ul>	


作物名	パセリ
病虫害 生理障害名	
うどんこ病	
発生状況	
少～中発生	
発生時期	
8月中旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>8月中旬頃から発生が確認された（5月下旬にも発生）。</li> <li>葉の表面がうっすらと白いかびに覆われる。</li> <li>高温でやや乾燥した条件下で多発しやすい。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>ほ場をよく観察し、発病初期に防除する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●クムラス 500～1,000倍 安全使用基準 — 使用回数 —</li> <li>少発生時：1,000倍で収穫後に散布。</li> <li>中発生時：500倍で収穫後散布。 または 1,000倍で収穫後と収穫数日前散布。</li> <li>多発生時：500倍で収穫後と収穫数日前に散布。</li> <li>葉部は細かい切れ込みや凹凸があるため、葉斑が残りやすい。 クムラス使用時は展着剤を必ず使用し、散布水量は流れ落ちない程度（10aあたり100～200リットル）とする。</li> </ul>	

作物名	アスパラガス
病虫害 生理障害名	
ヨトウムシ類	
発生状況	
発生に注意	
発生時期	
8月中旬～ 第2世代	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>今後、第2世代幼虫の発生が予想されるので注意する。</li> <li>幼虫は擬葉を食害するが、大発生し擬葉を食べ尽くすと、莖や側枝の皮を食害するためアスパラガスのほ場が白く見える。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>防除適期を逸すると被害が拡大するため、発生初期に確実に防除する。</li> <li>大発生し被害が大きいほ場では、来年の春芽収穫が過収穫にならないように気を付ける。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●コテツフロアブル 2,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> <li>●アディオソ乳剤 2,000倍 収穫前日まで 3回以内</li> <li>●フェニックス顆粒水和剤 2,000～4,000倍 収穫前日まで 2回以内</li> </ul>	

作物名	ブルーベリー
病虫害 生理障害名	
カイガラムシ	
発生状況	
中発生	
発生時期	
7月上旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>孵化した幼虫はこの時期、ほとんど動かず葉裏にいるが落葉前に枝に移動し、樹皮の下で越冬する。</li> <li>幼虫は半透明の楕円形をしており、良く観察しないと分かりにくい。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>来年の発生を抑えるために、殺虫剤散布する。</li> <li>樹皮下に移動すると、薬剤の効果が劣るので、移動前に殺虫剤を散布する。</li> <li>薬剤は葉裏に十分付着するように散布する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●ダースバンドF 3,000倍 収穫14日前まで 2回以内（翌年の防除カウントとして使用）</li> </ul>	

作物名	きく
病虫害 生理障害名	
灰色かび病（着蕾部）	
発生状況	
中発生	
発生時期	
6月下旬～	
発生の状況・要因	
<ul style="list-style-type: none"> <li>摘蕾部や芽かき作業中の葉の折損、また摘蕾残渣が葉上に残ったところから発生する。</li> <li>多湿時や風通しの悪い環境で発生が多い。</li> </ul>	
対策	
<ul style="list-style-type: none"> <li>●防除のポイント</li> <li>摘蕾、芽かき作業は天気の良い日に行い、その後必ず防除を行う。</li> <li>摘蕾、芽かき作業は丁寧に行い、脇枝下の葉を傷めないようにする。</li> <li>循環扇や加温機ダクト送風により通気性を良好にする。</li> <li>薬剤耐性を防ぐためローテーション防除に努める。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>●セ化 アー70アブル20 1,000倍 発病前～発病初期 4回以内</li> <li>●フルピカフロアブル 2,000～3,000倍 発病初期 5回以内</li> <li>●ポリバリン水和剤 1,000倍 発病初期 8回以内</li> <li>●アフエットフロアブル 2,000倍 発病初期 3回以内</li> </ul>	

作物名	きく																
病虫害生理障害名	 <p>摘蕾前に多発、花首が曲がり手遅れになった状態</p>																
アブラムシ類																	
発生状況																	
少発生																	
発生時期																	
6月上旬～																	
<b>発生の状況・要因</b>																	
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生は成長点付近に多く、密度が高いと成長点が湾曲する。</li> <li>成長点付近の下葉に寄生している場合は、葉裏に潜んでいることが多い。</li> </ul>																	
<b>対策</b>																	
<p>●防除のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>成長点付近を重点的に薬剤散布を行う。</li> <li>発生密度が高い場合は、未展開葉にも潜んでいるため、防除間隔を短くする。</li> <li>ネオニコチノイド系薬剤(アドマイヤー、ダントツ、モスピラン等)では効果が低下している場合があるため、連用は避ける。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>●モスピラン顆粒水溶剤</td> <td>4,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●チェス顆粒水和剤</td> <td>5,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●コルト顆粒水和剤</td> <td>4,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>4回以内</td> </tr> <tr> <td>●ウララ50DF</td> <td>5,000～10,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>6回以内</td> </tr> </table>		●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内	●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内	●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内	●ウララ50DF	5,000～10,000倍	発生初期	6回以内
●モスピラン顆粒水溶剤	4,000倍	発生初期	5回以内														
●チェス顆粒水和剤	5,000倍	発生初期	4回以内														
●コルト顆粒水和剤	4,000倍	発生初期	4回以内														
●ウララ50DF	5,000～10,000倍	発生初期	6回以内														

作物名	花き類全般												
病虫害生理障害名													
ヨトウムシ類													
発生状況													
中発生													
発生時期													
8月中旬～													
<b>発生の状況・要因</b>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>8月中旬より第2世代幼虫の発生が多くなってきた。</li> <li>成虫は葉の裏に卵塊(50～150個程度)を産み、孵化した幼虫は薄皮一枚残して食害する(写真左)。</li> <li>幼虫が成長するにつれて食害が大きくなり(写真右)、生長点に近い部分や花蕾部を食害することが多い。</li> <li>老齢幼虫は3cm位の大きさで、体色は緑～茶色。</li> </ul>													
<b>対策</b>													
<ul style="list-style-type: none"> <li>発生初期に防除する。</li> <li>食害を見落としやすいので注意する。</li> </ul> <p>&lt;防除の一例&gt;</p> <table border="0"> <tr> <td>●アファーム乳剤</td> <td>1,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>5回以内</td> </tr> <tr> <td>●コテツフロアブル</td> <td>2,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>2回以内</td> </tr> <tr> <td>●アディオオン乳剤</td> <td>2,000倍</td> <td>発生初期</td> <td>6回以内</td> </tr> </table>		●アファーム乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内	●コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回以内	●アディオオン乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内
●アファーム乳剤	1,000倍	発生初期	5回以内										
●コテツフロアブル	2,000倍	発生初期	2回以内										
●アディオオン乳剤	2,000倍	発生初期	6回以内										

◆農薬の使用に当たっては、使用基準を必ず守りましょう。なお、品目ごとの栽培防除体系を基に減農薬でクリーンな野菜生産を  
実践しましょう。  
◆防虫ネット・近紫外線カットフィルム・粘着シートなどを活用し、適切な栽培管理と合わせ、病虫害の発生を最小限に抑制しましょう。

◆この情報は、上川農業改良普及センター本所地域(旭川市、鷹栖町、幌加内町、当麻町、比布町、愛別町、上川町)向けに作成されています。気象・土壌条件作業体系から当地域以外には、適用されませんので十分ご注意ください。  
(不利益・損害などが発生した場合、当方は責任を負うことはできません)  
◆掲載されている農薬情報は、平成27年4月30日現在の登録内容となっていますので、活用の際は、あらかじめ安全使用基準を確認  
くださいますようお願いいたします。

■□■□■□■□■□ GAP手法の活用 【異物混入編】—異物混入防止は整理・整頓・出荷時の確認から— □■□■□■□■□■

- 農機の点検や清掃、異物除去等を行う際には、必ずエンジンを停止しましょう。
- 危険な場所(ほ場内や施設内等)が無いが、日頃から確認を行いましょう。
- 危険を伴う作業(草刈りや高所作業等)を行う際は、安全確認を必ず行いましょう。
- お互い声かけできる範囲内で作業を行い、なるべく「ひとり作業」は控えましょう。
- 高温時の作業は十分な休憩と水分補給を行い、熱中症を防止しましょう。



点検整備は、必ずエンジンを停止してから